

研修支援

研修会 参加型学習会

ICTを活用した授業
福祉事業所見学など

公開講座

7月22日、8月3日
8月5日、8月7日
(いずれも午後)
4講座を予定しています。

詳細は、各校園への案内、本校ホームページでお知らせします。

学校公開

6月3日(水)実施済み
見学・相談
10月14日(水)
体験・相談

公開授業

小学部
「生活単元学習」
中学部
「作業学習」など
高等部
「作業学習」など

【その他】

- 授業参観や施設見学等は、随時受け付けています。
- 教材・教具、検査道具の貸し出しなどもしています。

交通案内

JR新見駅から備北バス坂本行き哲多支局前下車
新見市営バス宮河内線
健康の森学園下車。

- JR石蟹駅からタクシーで
約20分(約11km)
- JR新見駅からタクシーで
約25分(約14km)



住所 〒718-0313 岡山県新見市哲多町大野 2034-5
電話 (0867) 96-2995 FAX(0867)96-2998
E-mail kenmorisien @pref.okayama.jp
HP <http://www.kenmorisien.okayama-c.ed.jp/>



地域の子どもたちの健やかな成長を願って

けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園支援学校

編集
けんもり支援センター
相談・研修支援部

平成27年 6月 2日 発行

平成19年度に特別支援教育が始まって、特別支援教育の理解は確実に進んできています。また、障害者の権利に関する条約に基づき、これからの特別支援教育においては、共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムを進める必要があります。

インクルーシブ教育システムを進めるためには、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対し、自立と社会参加を見据えて、教育的ニーズに的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが必要です。小中学校における通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学び場」を用意しておくことや学校間の連携が必要です。

基本的な方向としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すことが必要です。その場合には、それぞれの子どもが、授業の内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかが大切であり、そのための環境整備も必要になってきます。

毎日の子どもたちの活動の中で、「できた・たのしい」という成功体験の連続が「意欲」「主体性」「生きる力」を育てることになります。また、その活動の支援の連携が、将来のよりよい社会参加につながるため、その支援を共有する必要があることから、教職員の専門性を向上させる必要があります。

特別支援学校のセンター的機能の活用については、本校でもさらなる取組が必要であり、地域のニーズに応じた取組の一層の推進を図ることにしています。本校の今年度の重点の一つに位置付け、「専門指導員派遣事業」による教員派遣や公開講座の実施、交流学习及び共同学習の推進や各種情報提供等に加え、本校の取組についての情報発信や本校に対する各学校・園のニーズの把握、相談支援体制の整備など新たな取組も行い、地域の特別支援教育の充実や障害のある子どもたちのよりよい自立と社会参加に向けて、備北地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たしていきたいと考えています。

*インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とする目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。



校長 福岡孝美

通常学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり

授業のユニバーサルデザイン化

ユニバーサルデザインとは、配慮を要する子どもには「ないと困る支援」であり、どの子どもにも「あると便利で・役に立つ支援」を増やすと、その結果として、全ての子ども達の過ごしやすさと学びやすさが向上するといわれています。

平成27年3月に、岡山県教育庁特別支援教育課から、次のようなパンフレットが出されました。ここで考えられている「特別支援教育の観点を取り入れた通常学級の授業づくり」とは、特別支援教育と通常学級の教科教育のアプローチを融合し①授業のユニバーサルデザインの考え方を元に、すべての子どもがわかる・できる喜びを実感できることを目指した教科の指導の工夫と、②実態把握に基づいた個別の配慮のダブルスタンダード」と考えられているそうです。

具体的には、**実態把握**→**学級環境の整備**→**指導方法の工夫**と展開していくようになります。

学級環境の整備や指導方法の工夫なども紹介されています。学校環境や学級環境のチェックリストもありますので、活用していただくことが、困り感を持っている子ども達が少しでも楽しい学校生活を送ることができる事につながっていくと思います。

「称賛(ほめる)」(ユニバーサルデザイン化)

特別な配慮を要する子ども達は叱られやすいため、適時適切な称賛は「ないと困る」支援の一つだと考えます。適時適切な称賛は、対象となる子どもだけではなくまわりの子どもの意欲を高めることにつながる「あると便利で・役に立つ支援」になります。

称賛は学習への意欲を高めると考えられています。しかし、称賛のしかたが次のような場合には、学級全体の意欲向上に結びつかないそうです。

●意欲向上に結びつかない称賛

- 子どもが何をほめられたのか理解できていない。
- 特定の子どもの称賛が多い。
- 称賛の内容がほぼ同じ。
- 学習態度への称賛に偏っている。
- 心がこもっていないようなうわべだけの称賛・・・等

○意欲向上に結びついた称賛

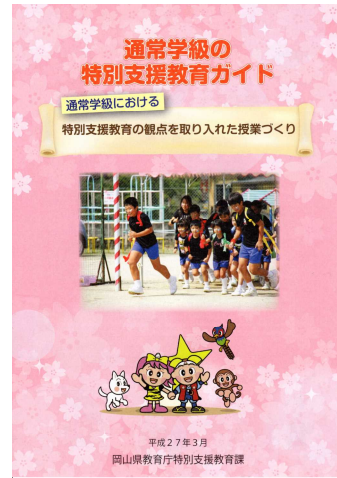
- 授業内容に即している称賛である。
- 子どもができるようになった事実に対応している称賛である。
- その子どもがほめて欲しいと思っていた内容に対応した称賛である・・・等

称賛の魔法

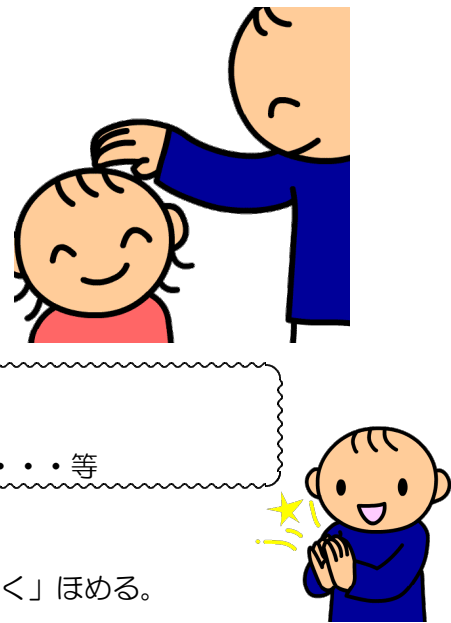
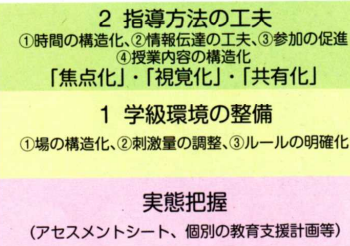
- できてあたりまえの行動やいいところを、「すぐに」「まめに」「さりげなく」ほめる。
- 称賛的なほめ方と情報的なほめ方を使い分ける。
- ほめ言葉「5S」「すごいね」「すてきだね」「さすが」「すばらしい」「それでいい」
- チームでほめる。(第三者にほめてもらう。)
- 子どもの行動をそのまま言葉にする。
- 目標に即してほめる。

【参考文献】

通常学級の特別支援教育ガイド 岡山県教育庁特別支援教育課
実践 通常学級のユニバーサルデザイン 佐藤慎二著 東洋館出版社



特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり



相談支援

子供たちに力をつけるには、どのようにすればいいかな？

専門指導員派遣事業

(学校・園へ専門指導員を派遣します)

電話相談・来校相談

(電話や来校していただいて相談します)

相談の例

- 障害のある子どもへの支援について
- 通常学級に在籍する特別な配慮を必要とする園児・児童・生徒の支援について
- 校内での教職員研修
(障害の特性とその特性に配慮した支援についてなどのニーズに対応)
- ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり
- 就学について(特別支援学校への就学など)
- 進路に関する事

※専門指導員派遣事業は、1年間に複数回利用できます。(回数に制限はありません)

- 相談内容の秘密は、厳守します。
- 相談日・相談方法・相談時間帯等の設定は、御希望を伺いながら進めさせていただきます。
- 専門指導員に本校のスクールカウンセラーが同行し、相談などを行うこともできます。
- 必要に応じて行政、福祉、医療機関などとも連携し、よりよい支援を探ります。
- 相談は、すべて無料です。

専門指導員派遣までの流れ

①けんもり支援センター窓口担当者 長濱益次(副校長)に電話で、相談内容、3日程度の候補日を伝える。 ☎0867-96-2995

②専門指導員派遣の日時を、けんもり支援センター長濱益次(副校長)からお知らせします。

③各市町村教育委員会に次の書類を提出する。
申請書(様式1号)、気づき表(別紙1)
作成している場合には、個別の指導計画、個別の教育支援計画

④本校の特別支援教育コーディネーターが訪問します。
小学部:黒瀬智子、中学部:光島由忠、高等部:小割正史
※学校園に訪問させていただく前に、電話等で園児・児童・生徒の詳しい様子をお伺いする場合があります。

